

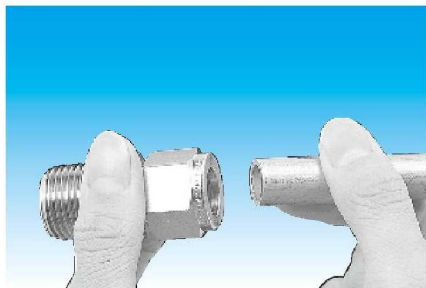
取付け手順

チューブの準備

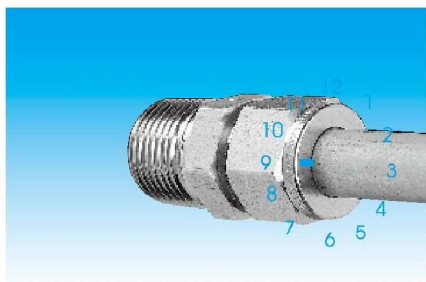
1. チューブの外径、肉厚、長短径比、硬度、それらの許容差が、用途の仕様の範囲内であるかチェックします。またチューブの表面に傷やゴミがないか確認します。
2. チューブを直角に切断します。(必ず適切なチューブカッターを使用してください。不適切なチューブカッターを使用すると、チューブ端に過度の変形を生じることがあります。)
3. チューブ端部の内側と外側のバリを取り除きます。

1インチまたは25mm以下のHy-Lok継手の取付け手順

Hy-Lok継手は、完全に組み立てられた状態／指で締められた状態で供給され、すぐに使用することができます。ナットを1 1/4回転(小さなサイズの継手は3/4回転)して締めるだけで、漏れが生じない、機械的に安全な状態に容易に取り付けられます。



1. チューブ端が継手本体のショルダー部にぴったり当たるまで、準備したチューブを継手に挿入し、ナットが指で締められた状態になっていることを確認します。(スムーズに挿入できない場合、チューブをフェルールに無理に押し込まないでください。チューブにバリがある、またはチューブが楕円に変形しているか、継手の内側に異物が付いている可能性があります。)



2. 回転の起点を識別するために、9時の位置にナットに印を付けます。
3. 継手本体をバックアップレンチでしっかり保持しながら、レンチでナットを1 1/4回転*締め付けます。ナットが1 1/4回転したところで、締め付け前に9時の位置にあった印が12時の位置になっていることを確認します。

注*: 1/16、1/8、3/16、2mm、3mm、4mmのサイズについては、指で締められた状態から3/4回転だけ回転させます。

高圧用途

Hy-Lok継手は、ASTMや同等の仕様に指定されるさまざまなチューブに対応するよう設計されていますが、高圧用途では、一般的な起点、すなわち最適な起点を設定することがより望まれます。まずチューブ端がいっぱいまで挿入されていることを確認します。チューブが指で回らなくなるまでナットを若干締めます。この最適な起点から1 1/4回転(小さなサイズでは3/4回転)させると、確実に漏れが生じないように取り付けられます。

再取付けの手順

Hy-Lok継手は何回でも取り外し・取り付け直しができ、その都度、漏れが生じないように接続できます。

1. チューブを挿入します。チューブはフェルールによって継手本体に圧着されます。
2. 指でナットを締め付けた後、バックアップレンチで継手本体をしっかりと保持しながら、元の位置(最初に1回転と1/4締めた位置)までナットをレンチで締めます。この元の位置まで回転させると急に大きな抵抗を感じます。そこからレンチで若干増締めします。